

さぞ産声を挙げたかったであろうに

中絶 命から切り離された無言

ホルマリン漬けの容器の中に浮いている沈黙

随分永い間置き去りにされていた

私達はあの胎児の為に

叫んだことはあったか

奪われていった命の為に

今は取り返しのつかない過去という時間

一体何の為に刻を使ってきたのか

乳房はすでに待っていた

だが唇はそれへ届くことも無く

絶たれてしまった無言

並べられていたホルマリン漬けの胎児

産声をあげたかもしれない

それを絶命させた医学

私は見えない目でそれを見る

証拠保全の為の検視

その日の為の立ち会い

四十七、八年以前の重病棟事務主任という役職

貧しい医療と乏しい栄養

当然 死亡者は多かった

死者が死体になる

棺へ納めた亡骸を解剖室へ運ぶ

鍵を預かっている私

棺を納めるために鍵を開け

・・・鍵をかける

私の役目の終了

私の知っていた解剖室は既に造り変えられ

かつてあんなに出入りしたその場所の想像もつかない変貌

解剖のその死体から取り出された臓器

何百というホルマリン漬けの容器

胎児達の一群もその中に並んでいる

私の知る由もない世界

説明を聞きながら

見えない目の中へ創り上げていく

死者の残していったもの

その者たちへ

無為に流れていった時間